継続的で効果的な放送教育の研究実践

長崎県立佐世保中央高等学校 通信制

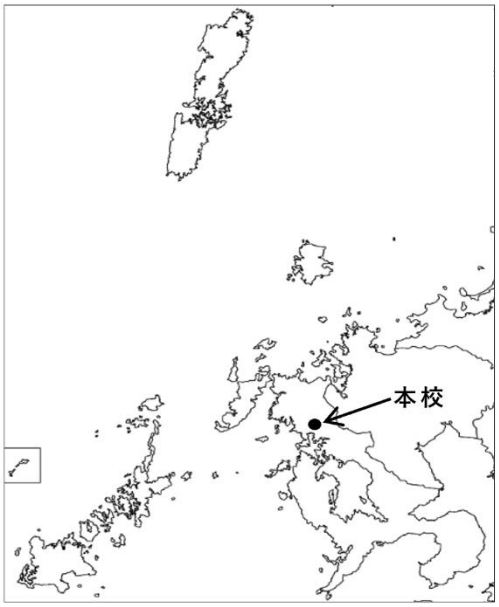
１．はじめに

（１）本校の概要

本校は長崎県に２つある県立通信制高校の１つであり、県北部に位置する（右図）。

昭和５２年に複数の公立高校が統合され、定時制・通信制の県北部の中心校として本校（通信制および定時制夜間部）が設立された。

平成５年には現在の場所（佐世保市梅田町）に校舎が移転され、定時制昼間部も加わり、三課程の体制が完成した。入学式や卒業式、文化祭（中央祭）は三課程合同で開催している。



（２）生徒の状況

令和３年２月現在、通信制の在籍生徒数は５２２名、そのうち活動生数は２７３名である。学年制を採用しており、１～３年次はそれぞれ４～５学級、１学級あたり２０名前後の生徒が活動している。生徒の通学地域は県北部だけでなく、上五島のような離島地区や隣接する佐賀県西部も含まれている。

また、令和２年度受講登録時に行った生徒アンケート結果を一部掲載することで、生徒の現状の紹介としたい。

（令和２年度受講登録 生徒アンケート 256 名分）

①年齢層

15	16	17	18	19	20 代	30 代	40 代
38 人	46 人	60 人	49 人	20 人	33 人	6 人	4 人

②スマートフォンやパソコンで動画視聴や検索をするとき、通信料は気になりますか。

気になる	気にならない	持っていない
33.6%	65.2%	3.9%

③あなたが面接指導を受けるとき、理解しやすいものはどれですか。（複数回答可）

電子黒板での静止画・動画	電子黒板でのスライド	先生の説明	先生の板書	生徒同士の話し合い	実技・実験・実習等
21.8%	13.8%	27.8%	17.2%	8.5%	10.8%

（３）職員の状況

令和２年１２月現在、本校通信制の常勤職員は１６名である。アンケート結果を掲載することで紹介としたい。

（令和２年度末　職員アンケート 16 名分）

①年齢層

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
6.3%	6.3%	25.0%	37.5%	25.0%

②本校での勤務人数（令和２年度末までで計算）

１年	２年	３年	４年	５年	6～10 年	11 年以上
18.8%	6.3%	12.5%	25.0%	18.8%	12.5%	6.3%

③本校での面接指導スタイル（複数回答可）

黒板での板書	動画、パワーポイント等	書画カメラ	実技・実習・実験	その他
32.3%	32.3%	16.1%	12.9%	6.5%

④教室の電子黒板およびインターネットの手軽さ

	とても手軽に利用できる	手軽に利用できる	手軽には利用できない	全く利用できない	その他
電子黒板	37.5%	31.3%	18.8%	12.6%	0.0%
インターネット	18.8%	43.8%	18.8%	12.6%	6.3%

２．研究目的

私自身､本校に赴任するまで､恥ずかしながら NHK 高校講座の存在は知っている程度で、電子黒板を使ったこともなく､教室でインターネットに接続したこともなかった｡しかし、本校に赴任して通信制高校の教育について考える中で、放送教育の活用は不可欠であると感じるようになった。また、本校は公立高校のため、人事異動により毎年職員の配置が変わる。職員が変わっても、負担感なく放送教育を活用する体制作りの必要性を感じた。

これらのことを踏まえ、次の目的を設定した。

（１）本校の実態に応じて、全職員が継続的かつ効果的に実践できる放送教育の在り方を研究する。

（２）研究活動の蓄積と共有を全職員で行い、各教科や総合的な探究の時間、LHR の指導等に関して学校全体の授業改善につなげる。

３．全体の取組

本校では、NHK 高校講座の生徒への周知や、本校職員の研修の機会などを目的として、全体として次のような取組を行った。各取組の補足は後に記述する。

また、総合的な探究の時間と教科での取組については、後の項目で取り上げる。

時期		取組内容
R1	前期	① 研究委嘱について全職員での情報共有（職員朝会、職員会議） ② NHK 高校講座モニターを全職員へ依頼
	後期	③ 東京視察（9/24～9/26）と本校職員への報告会の実施 （内容　NHK 放送局での収録見学・参加校による情報交換会 NHK 学園高等学校、東海大学付属望星高等学校への学校訪問） ④ 校内で職員研修会の計画と実施（12/18）（講師　全通研会長） ⑤ 全職員へのアンケート
R2	前期	⑥ 受講登録時に全生徒へアンケート実施（生徒のインターネット環境等） ⑦『令和 2 年度学習の手引き』（生徒が携行する冊子）の改善 ⑧レポートの表紙裏面に NHK 高校講座の番組表の掲載 ⑨LHR（全校集会）で NHK 高校講座の紹介と視聴方法の確認 ⑩NHK for school の番組表（冊子）の全職員配付
	後期	⑪学校訪問および情報交換会の実施 （学校訪問：熊本県立湧心館高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校 情報交換会（zoom）：山口県立山口高等学校） ⑫全職員へのアンケート実施 ⑬R3 年度レポート表紙に、各レポートの関連 NHK 高校講座番組回の掲載 ⑭受講登録時に全生徒へアンケート実施（3 月～4 月予定）

〔学校訪問や視察に関する補足〕

③について

・NHK 放送局および各学校の先生方のご協力を得て、視察を実施することができた。放送教育だけでなく通信制教育全般について関東地区の公立通信制高校の先生方ともお話しする機会を得て、大変刺激となった。視察の内容について校内で報告会を開き、全職員での情報共有を行った。

④について

・上記③の学校訪問の際、東海大学付属望星高等学校の校長先生から講師派遣の研修会を紹介していただき、全通研会長（賀澤先生）をお招きして校内で職員研修会を実施することができた。

⑪について

・九州地区近辺の通信制高校への学校訪問を企画し、実施した。1 月に予定していた博多青松高校と山口高校の視察は新型コロナウィルス感染拡大をうけて中止となったが、山口高校とは zoom で情報交換会を実施することができた。

〔⑦の補足〕本校の令和２年度「学習の手引」抜粋

東京視察の際に、東京都立一橋高校の山口先生からレポート等の資料をいただくことができた。山口先生のレポートに掲載されていた視聴方法の説明が非常に分かりやすかったため、本校の「学習の手引」で活用させていただいた。

10. 放送またはインターネットの利用

NHK 高校講座はＥテレ及びラジオ第2放送で放送が行われています。また、NHK 高校講座のホームページでも同じ放送内容を視聴することができます。放送を利用した学習は、学習理解の上で役に立つだけでなく、働きながら、自宅にあって学んでいる同じ仲間が全国にいるという、精神的な連帯感を持つことができ、継続視聴によって学習の習慣が身につくという効果ももっています。

放送またはインターネットを利用した学習を大いに心がけ、学習効果の向上に努めてください。

1）視聴方法

（1）テレビで見る方法

① 各科目のレポート表紙の裏面「年間放送予定」で見たい回の放送日を確認する。

② 録画が可能であれば、録画して都合の良い時間に視聴する。

（2）パソコン、モバイル端末（スマートフォンなど）で見る方法

①「NHK 高校講座」を検索する。

②もしくは右側の QR コードを読み取る。

③視聴したい科目のページに移動する。

④ 最新の放送内容が出てくるので、必要に応じて「１学期」「２学期」「３学期」を選択し、見たい回を選んで視聴する。

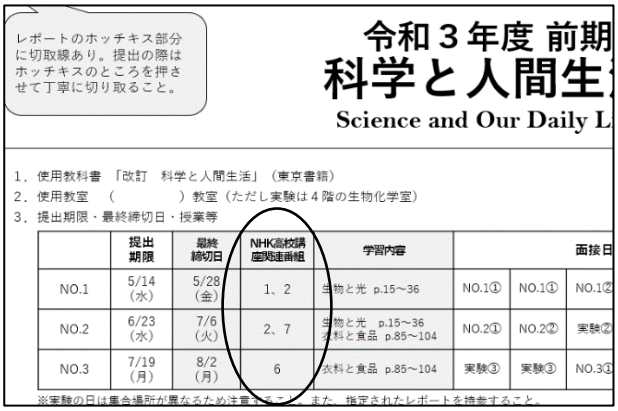
2）視聴する際の注意事項

（1）NHK 高校講座の利用に費用はかかりませんが、インターネット接続に必要な費用や通信料、携帯電話のパケット通信料などは自己負担となります。スマートフォン等で視聴する場合、事前によく確認しましょう。

（2）各科目のレポート表紙の裏面に年間放送計画が添付されていますので活用しましょう。ただし、放送予定が変わる可能性もありますので、ホームページ等で最新の情報を確認しましょう。

〔⑧の補足〕

NHK 高校講座が制作されている科目については、本校の科目レポートの表紙裏面に番組表の掲載を行った。令和３年度からは、表紙にレポート毎の関連番組を掲載する方向で作成している。これは、放送教育担当以外の先生からご意見をいただき実現できたことであり、大変感謝している。（右図はＲ３前期レポート表紙）



レポートのホッチキス部分に切取線あり。提出の際はホッチキスのところを押させて丁寧に切り取ること。

令和３年度 前期

科学と人間生

Science and Our Daily L

1．使用教科書 「改訂　科学と人間生活」（東京書籍）
2．使用教室 （　　）教室（ただし実験は４階の生物化学室）
3．提出期限・最終締切日・授業等

	提出期限	最終締切日	NHK高校講座関連番組	学習内容	面接日		
NO.1	5/14（水）	5/28（金）	1、2	生物と光 p.15～36	NO.1①	NO.1①	NO.1②
NO.2	6/23（水）	7/6（火）	2、7	生物と光 p.15～36 衣料と食品 p.85～104	NO.2①	NO.2②	実験②
NO.3	7/19（月）	8/2（月）	6	衣料と食品 p.85～104	実験③	実験③	NO.3①

※実験の日は集合場所が異なるため注意すること。また、指定されたレポートを持参すること。

〔⑨の補足〕

令和２年５月２４日、９月１４日に実施した全学年合同の LHR で時間をいただき、本校ホームページや NHK 高校講座の紹介を実施した。

本校体育館には生徒用 LAN ケーブルが設置されているため、実際にインターネット上で NHK 高校講座を検索して視聴するまでの流れをプロジェクターに投影して生徒へ紹介することができた。NHK 高校講座から送付されているパンフレットも、このときに配付した。

（右写真はＲ２年度前期 LHR の様子）

４．「総合的な探究（学習）の時間」の取組

本校の「総合的な探究の時間」では、３年間を通して進路学習（キャリア教育）を中心に実施している。本研究を機会に、学校全体で「総合的な探究の時間 デザインシート」の作成・共有および放送視聴の活用を実施した。

（１）令和２年度のテーマ・内容および放送視聴の活用

	前期	後期
１年	テーマ 『自分を知り、これからを考える』	テーマ 『いろいろな仕事を調べてみよう』
	・これまでの人生を振り返る作文 ・自己分析・これから身に付けたい力 「NHK for school」オンマイウェイ視聴	・仕事の意義について考える。 ・関心のある仕事の調べ学習。 「NHK 高校講座」総合的な探究の時間 ～仕事と私～ 視聴
２年	テーマ 『就職・進学の仕組みについて探求しよう』	テーマ 『就職先・進学先を探求しよう』
	・進路のしおりや学習の手引きを使った進路情報の整理 「NHK for school」アクティブ 10 公民 (17)何のために働くの？等　　視聴	・求人票や進学先の調べ学習 （インターネットを使った検索） ※放送教育の活用なし
３年	テーマ 『自己理解を深めよう』	テーマ 『人生設計を考えよう』
	・自分について知る（インタビュー等） ・履歴書作成 ※放送教育の活用なし	・人生の目標や社会人、職業人としての在り方や理想像を考える 「NHK 高校講座」総合的な探究の時間 ～あなたはどのように社会に役に立てるのか～ ～あなたが社会とつながることで何がうまれるか～視聴

令和２年度に全学年で「総合的な探究の時間 デザインシート」を作成し、視聴計画を立てるにあたって、令和元年度に下記のような準備を行った。

【令和元年度の準備】

①総合的な探究の時間で活用できる番組の選定（担当者）

②学年団への令和元年度後期の視聴と生徒アンケートを依頼（担当者）

③1、3 学年「総合的な探究の時間」で番組視聴、生徒アンケート実施（各学年）

④「総合的な探究の時間」推進委員会で、次年度の「総合的な探究の時間 デザインシート」の作成と番組視聴の提案（担当者）

⑤各学年で視聴番組の選定と「総合的な探究の時間 デザインシート」の作成（各学年と担当者）

（２）「総合的な探究の時間 デザインシート」の一例（令和２年 後期 １学年）

総合的な探究の時間　デザインシート

科目	前期　・　(後期)	総合的な探究の時間（１）
場所	４０６教室	
テーマ	「いろいろな仕事を調べてみよう」	
内容	①自分にとっての仕事の意義を考える。 ②自分が関心のある仕事について調べまとめる。 ③調べたことを通して学んだことから、もう一度仕事の意義を振り返る。	
学習の進め方	①仕事の意義を考えながら、調べ学習を行う。 ②ネットや図書館等を利用し、自分が関心のある仕事を調べてまとめる。	

面接指導の流れ

・本時の流れを説明する。 **課題１「仕事（働くこと）の意義」について考えてみよう。** ・「今の時点」であることを確認し、自由に記述させる。 ★NHK 高校講座「総合的な探究の時間」番組視聴（20 分） ・ライブラリー「仕事と自分①～のんちゃんの場合～」 ・ライブラリー「仕事と自分②～ふりゅー君の場合」 ※視聴後、アンケートを実施する。 ※番組を視聴するタイミングはその都度、検討する。 **課題２「興味や関心の高い職業を知ろう」** ・別添の資料をもとに、作業させる。 ・仕事は、資料の選択肢にないものも含めて考えさせる。 **課題３「仕事（職業）について調べてみよう」** ・自宅等で取り組むことを伝える。 ・具体例を提示しながら記入の方法を伝える。 ・インターネットや図書館等を利用して調べるよう伝える。 **課題４「今回の学習の感想」** ・課題の最後に取り組むことを伝える。 ・出席カードの配付と回収。その他の連絡事項。	・電子黒板、ネット接続を事前に準備しておく。 （視聴したい番組を一旦再生し、一時停止しておくとスムーズにいきやすい） ・課題２については、スムーズに作業できているか、机間指導しながら必要に応じてアドバイスする。 ・課題４については、課題１～３を通して気づいたこと、変化したこと等を意識しながら記入するよう伝える。

（３）令和２年度後期「総合的な探究の時間」視聴後の生徒アンケート

本校での設定科目と視聴番組、実施生徒は次の通りである。

①１年次設定科目「総合的な探究の時間（１）」　５回の面接　**生徒６０名分**

②３年次設定科目「総合的な探究の時間（３）」　５回の面接　**生徒７５名分**

質問１今回視聴した番組を見たことはありましたか。

	見たことがあった	見たことがなかった
①１年次科目	3.3%	96.7%
②３年次科目	4.0%	96.0%

質問２今回視聴した番組は参考になりましたか。

	とても参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった
①１年次科目	48.3%	43.3%	5.0%	3.3%
②３年次科目	40.0%	56.0%	2.7%	1.0%

質問３今回のように、面接指導で放送視聴を活用することについてどう思いますか。

	活用してほしい	活用してほしくない	どちらでもよい
①１年次科目	63.3%	1.7%	35.0%
②３年次科目	65.3%	1.3%	33.3%

質問４今回視聴したような番組を、面接以外（自宅等）で視聴しようと思いますか。

	視聴したい	視聴したくない	分からない
①１年次科目	16.7%	11.7%	71.7%
②３年次科目	33.3%	16.0%	50.7%

質問５今回の番組について、感想や要望、意見があれば自由に書いてください。

（総合的な探究の時間（１））

・すごく面白かったです。とてもためになりました。

・興味のある仕事を、どのように調べればよいのか参考になった。

・自分以外の人の考え方を知れて良かったです。

（総合的な学習の時間（３））

・自分から動くということが本当に大切だと感じた。

・自分の好きなことや興味のあることに対しての熱意を見て、とても影響を受けました。

・課題を繰り返すことで最終的にやりたいことに繋がっていたので、大切なことなんだなと思いました。

（４）令和２年度末　職員アンケート（16 名分）

質問１「総合的な探究の時間」で視聴した際の先生ご自身の感想を教えてください。

参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	視聴していないので分からない
50.0%	43.7%	0.0%	0.0%	6.3%

質問２視聴した具体的な感想や意見等がありましたらご記入ください。

・放送内容がよく検討・精査されていると思いました。高校生たちが興味・関心を引くような内容、構成、演出であったとも思います。視聴を取り入れることにより、指導に変化、厚み、深みを与えることも可能になると思いました。
・50 分という面接指導の枠の中で、どの部分を切り取るかが難しいと思う。全体を視聴できれば、より効果的とは思えるが、コンパクトにまとまった教材があれば使用しやすい。生徒の反応は良好。
・指導したい内容と番組の内容とが必ずしもマッチしていない。

質問３次年度以降「総合的な探究の時間」での放送視聴の活用をどう思いますか。

活用した方がいい	活用しない方がいい	分からない
100%	0.0%	0.0%

（５）「総合的な探究の時間」の取組に関するまとめ

取組の成果として次の２点を挙げる。

１つ目は、面接時の視聴による生徒への効果を確認できたことである。生徒アンケートから、番組視聴は効果的で、総合的な探究の時間の理解につながったことが分かった。また、生徒は学校で視聴することには前向きであるが、自宅等で視聴することには積極性に欠けることも分かった。生徒の実態から、学校で定期的かつ継続的に視聴を活用する機会を設けることが必要であると考察する。

２つ目は、職員全員で取り組むことができたことである。「総合的な探究の時間」は、本校では学年全員で取り組むので、同じ番組を視聴して意見交換したり、役割分担したりしながら進めることができる。つまり、各教科担当者の枠組みを超えて、同僚性、協同性を生かした取組となったといえる。職員アンケートでは、次年度以降の放送視聴の活用について全職員が「活用した方がいい」と答えたことも特筆すべきことである。

私自身の感想として、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」は、面接 50 分の限られた中で、「自ら課題を設定し、解決方法を探っていく。そしてそれを繰り返す」というねらいを、具体性をもって生徒に伝えることができる教材だと感じた。実際の通信制高校の生徒が試行錯誤しながら課題に向き合う姿には説得力があり、生徒の心を動かす力があると思う。

５．各教科での取組

各教科については、NHK 高校講座モニター提出やレポート表紙裏面への番組表の掲載以外は、取組を自由とした。

（１）NHK 高校講座モニター提出について

①モニター提出の概要

科目	令和元年度				令和２年度		合計
	１回目	２回目	３回目	４回目	１回目	２回目	
国語総合		1	1	1	1		4
国語表現		1	1	1			3
現代文		1	1	1	1	1	5
古典		1	1	1			3
世界史	1	1				1	3
日本史	1	1	1	1	1	1	6
地理				1	1		2
現代社会							0
数学Ⅰ	2	1	1	1	1	1	7
数学Ⅱ	1			1	1		3
科学と人間生活	2	2	2		2	1	9
物理基礎	1	1	2		2	1	7
化学基礎	2	1	1	1			5
生物基礎	1				1		2
地学基礎	5	1	2	1			9
保健体育	1	1	1	1		1	5
美術	1	1	1	1	1	1	6
書道	1	1	1	1	1	1	6
コミュニケーション英語Ⅰ	1	1	1	1	2	1	7
コミュニケーション英語Ⅱ	1	1	1	1	1	1	6
英語表現						1	1
家庭総合	1	1	1	1	1	1	6
社会と情報	7	2	5	4			18
簿記					2	1	3
総合的な探究の時間	1	1			3	1	6
ロンリの力	2					2	4
ベーシック数学						1	1
ベーシック国語						1	1
ベーシックサイエンス					1		1
ゲーム部					3		3
合計	32	21	24	20	26	19	142

②NHK 高校講座モニターでの各教科の記述（抜粋）

・国語の各分野に亘って、そのエキス・本質の部分に触れてありました。また、わかりやすく、ユーモア感あふれる番組構成でした。ぜひ生徒に視聴を勧めたいと思います。更に、面接時にも取り入れることで、立体的・多角的に授業のテーマを伝えることができればと思いました。（ベーシック国語）

・「番組を見てから教科書を読むのもいいが、教科書を一度読んでから番組を見ると更に内容がよく理解できる」ことを生徒に話した上で番組視聴をすすめています。（数学）

・監修の先生方それぞれの色が資料の使い方、構成に出ており、意図を考えながら見ています。資料から歴史を考察する部分が多いので、発問の際の参考になっています。（日本史）

・今年は、面接授業の中で毎時間視聴する時間を 15 分前後入れて実施しました。各番組がレポートで扱う内容と合致していることが多く、今後も取り入れる予定です。地歴の科目では視聴を取り入れることは、とても効果的です。ただし、ライブラリーの視聴方法が非常に分かりにくい構成になっているので改善が必要。（世界史）

・教科書には掲載がないような、施設紹介や実験映像が多いところが非常に良い。映像ならではの学習ができる。（科学と人間生活）

・新しい単元に入る段階での導入に活用している。自宅で制作に取り組む生徒の指針としても視聴をすすめている。達人の書が臨書の手本として印刷できれば生徒もより身近にプロの作品に触れることができ、制作の意欲にもつながると思う。（書道）

・全編を通して、あらゆる場面で必要な力を育み、総合的な探究、国語、道徳、小論文対策などいろいろな教科で活用ができる教材だと思う。こうした番組をぜひ継続させてほしい。（ロンリのちから）

・のんちゃんの「仕事に就いてからも常に勉強し続けることが続いていく」という終わり方は素晴らしいと思いました。番組２つとも実際にやってみたいことにオープンキャンパスに行くことが出てきますが、通信制では経済的に進学を考える余裕のない生徒が多いこと、地方では専門学校や大学の数が少ないことがやや気になりました。（総合的な探究の時間～仕事と私～）

（２）「NHK 高校講座」の各科目での活用状況

①活用の概要（職員アンケートより抜粋、複数回答可）

面接時に視聴(一部含)した	面接時に番組を紹介した	レポートに関連問題を出題した	事前に視聴し面接授業に還元した	その他	活用なし
8 人 (25.0%)	10 人 (31.3%)	2 人 (6.3%)	10 人 (31.3%)	2 人 (6.3%)	0 人 (0.0%)

※補足　NHK 高校講座以外の放送視聴を活用した先生も複数あり。

例）「NHK for school」「県教育センター学び直し動画」「総務省 HP」等

②各科目の活用例（抜粋）

科目	活用例
数学 I	・レポートに NHK 高校講座の問題を出題した。 実際のレポート例） ＜NHK高校講座　数学Ⅰからの出題＞ 6　NHK高校講座 数学Ⅰ 2学期 第19回「2次関数と2次関数のグラフ(2)」の番組を視聴して，2次関数 $y=x^2-2x+5$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形（平方完成）に変形しなさい。 ・数学の学習会（面接日以外）で、学習会の中でベーシック数学を視聴する時間を設けた。
日本史 B	・学校ホームページで公開している日本史通信で、NHK 高校講座のおすすめ番組を掲載した。 ・面接授業時に配付するプリントに、関連番組の QR コードを掲載。 ・面接時間中に一部視聴した。
国語表現	・レポートに「ロンリのちから」関連問題を出題した。
書道	・全体に対しては、新しい単元の導入での視聴とグループワークの代用として活用。 ・個別に対しては、技術面でのステップアップの補助として、「達人に聞こう」の活用
化学基礎	・レポートの大問番号で、関連番組の紹介をした。 実際のレポート例） 1　酸化と還元　教科書p134～137、学習書p118～123　参考番組 NHK 高校講座「化学基礎」第 33 回『酸化･還元』 (1)酸化や還元は、酸素や水素、電子の授受で定義される。表中①～⑥の適する方に○印を書け。 酸化された ① 受け取る ・ 失う / 酸素 O / 還元された ④ 受け取る ・ 失う ② 受け取る ・ 失う / 水素 H / ⑤ 受け取る ・ 失う ③ 受け取る ・ 失う / 電子 e^- / ⑥ 受け取る ・ 失う

（３）活用した先生方の感想・意見（職員アンケートより抜粋）

質問１放送視聴を活用した効果についてどう感じましたか。

効果的だ	まあ効果的だ	あまり効果的ではない	分からない
62.5%	37.5%	0%	0%

質問２次年度の放送教育の活用について、どう考えていますか。

活用したい	活用したくない	分からない
87.5%	0.0%	12.5%

質問３その他（自由記述）

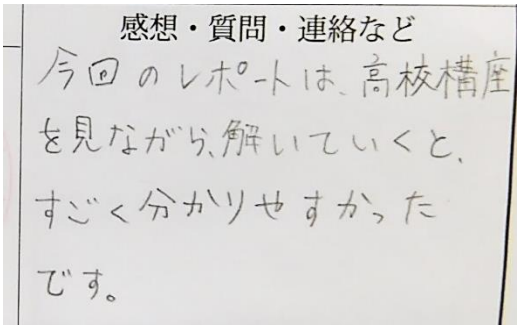
・分かりやすい実践例や、ものの見方など、教員個人で準備するには時間がかかる教材を提示できる点がよい。
・面接指導の導入として活用すると効果的であった。番組でいいところがあった場合、レポートにも取り入れることがあり参考になった。
・レポートの概要を説明した後、高校講座を視聴させることで、生徒の学習内容への関心がより増した。
・実習、実験を師範代わりに視聴させることが効果的だった。
・番組紹介を面接指導の中に取り入れ、自学の補助にするように促したり、映像資料として活用することが増えた。

（４）生徒アンケートや感想・アンケート（抜粋）

各科目の放送教育活用は各担当者に一任していたため、アンケート等の実施については放送教育担当の科目に限られてしまったが、一部掲載する。

①生徒直筆の感想

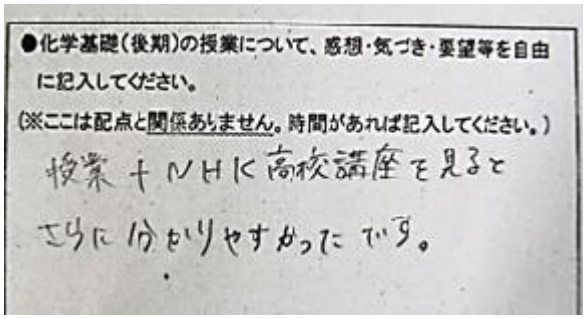
地学基礎の付票



記入内容

「今回のレポートは高校講座を見ながら解いていくと、すごくわかりやすかったです」

化学基礎のプリント



記入内容

「授業＋NHK 高校講座を見ると、さらに分かりやすかったです。」

②面接時の一部視聴後アンケート

（令和元年７月　化学基礎、物理基礎、科学と人間生活　合計 125 名）

質問１今回、視聴した番組は参考になりましたか。

とても参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった
51.2%	43.2%	4.8%	0.8%

質問２今回、視聴した番組以外も、面接授業で視聴したいですか。

視聴したい	視聴したくない	分からない
67.2%	4.0%	28.8%

質問３今回、視聴した番組以外を面接授業以外(自宅等)で視聴しようと思いますか。

視聴したい	視聴したくない	分からない
32.0%	12.0%	56.0%

質問４具体的な感想や意見

・授業が終わった後、まとめとして家でも視聴しようと思いました。
・面白くて、それでいて分かりやすい
・教科書の内容や写真だけではわかりにくいところが、この講座では分かりやすくまとめてある。
・以前、家でも視聴したのですが、すごく分かりやすくていいと思います。
・スマホやパソコンで気軽に見られるのがよい。
・家で学習するときにとても役に立ちます。

（５）各教科の取組に関するまとめ

各教科の取組の成果として、先生方の放送教育への興味・関心が高まり、活用の場面が増えたことが挙げられる。研究委嘱要項の中に、NHK 高校講座モニター提出があったことを活用して、２年間を通して、全ての先生方に複数枚の提出をしていただいた。そのこともきっかけとなり、NHK 高校講座の理解が深まり、先生方の活用につながったのではないかと考える。各教科の特性に応じて、いろいろな活用法が分かり、他教科間での学びの場にもなった。職員アンケートでも、放送教育活用の効果を感じた先生が多いことを確認できた。

また、生徒アンケートからも、生徒にとって視聴が効果的であることは明らかである。一方、面接時以外での視聴に消極的なこともアンケートから確認できる。自宅でも主体的に視聴するためには、今後も学校で定期的に情報発信したり、一部視聴などの機会を設けることが必要であると考える。

６．まとめ

（１）生徒アンケートおよび職員アンケートの結果を掲載する。

（令和２年度受講登録 生徒アンケート 256 名分）

質問１ NHK 高校講座を、面接時や視聴報告を除いて、視聴したことがありますか。

ある	ない
65.2%	34.8%

（令和２年度末　職員アンケート 16 名分）

質問１ 本校の２年間の取組について、先生ご自身の負担感を率直にお聞かせください。

負担に感じなかった	あまり負担に感じなかった	少し負担に感じた	負担に感じた
53.3%	26.7%	20.0%	0.0%

質問２ 今回の研究を通じて、面接指導やレポート作成に関して職員間で会話や話題が増えたり、職員間で連携を図りながら進める機会が増えましたか。

増えた	少し増えた	あまり増えなかった	増えなかった
53.3%	33.3%	13.3%	0.0%

質問３ 今回の研究を通じて、先生ご自身がレポート作成する際に、改善につながるような意識の変化はありましたか。

変化があった	少し変化があった	あまり変化がなかった	変化がなかった
46.7%	33.3%	20.0%	0.0%

質問４ 今回の研究を通じて、ご自身の面接指導の実施内容について、改善につながるような意識の変化はありましたか。

変化があった	少し変化があった	あまり変化がなかった	変化がなかった
53.3%	40.0%	6.7%	0.0%

質問５ 今回の研究は、全職員で共有しながら進めることができたと感じますか。

できた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった
33.3%	60.0%	6.7%	0.0%

質問６ 本校での面接指導スタイル（複数回答可）

	黒板での板書	動画、パワーポイント等	書画カメラ	実技・実習・実験	その他
２年前	50.0%	25.0%	12.5%	8.3%	4.2%
現在	32.3%	32.3%	16.1%	12.9%	6.5%

（２）研究の成果

今回の研究の成果として次の２点を挙げる。

①本校の実態に応じて放送教育を取り入れ、効果を得ることができたこと。

アンケート調査から、生徒の実態として、スマートフォンやパソコンを持っていない生徒、通信料に不安がある生徒がいることを把握した。また、先生方にも電子黒板やインターネッ利用に技術的な差があることが分かった。それらの実態を踏まえた取組ができたと言える。また、「総合的な探究の時間」に放送教育を取り入れることで、全生徒および職員に放送教育を活用する場面を共通して設けることができた。

前述(1)の生徒アンケートでは、面接時以外で視聴したことがある生徒が６５％以上にのぼった。予想以上の数字である。全体での取組、総合的な探究の時間での取組、各科目での取組が実を結んでいると考察する。

②全職員で情報共有しながら、学校全体の授業改善につながったこと。

２年間、さまざまな角度から放送教育の活用を検討し、実施した。実施には先生方の理解と協力が不可欠であるので、研究の趣旨を各年度当初に伝え、視察や報告会、職員研修会、生徒アンケート結果の共有等を実施した。

また、前述(1)の職員アンケートでは、先生方ご自身の負担感として、「負担に感じなかった」、「あまり負担に感じなかった」が８０％であった。面接指導やレポートへの取組の意識変化については、「変化があった」、「少し変化があった」が面接指導は９３％、レポートは８０％であった。面接指導スタイルの経年比較からは、先生方の面接指導スタイルのバリエーションが増えたことを確認できる。これらの結果から、先生方に大きな負担をかけることなく放送教育活用を取り入れ、授業改善につながったと考察する。

上記①②より、本研究の目的であった「本校の実態に応じて、全職員が継続的かつ効果的に実践できる放送教育の在り方を研究する。また、研究活動の蓄積と共有を全職員で行い、学校全体の授業改善につなげる」ことを達成できたと考える。

今後は、これらの取組が研究年度だけに終わらず継続的なものになるよう、本校の放送教育活用のシステム化、校内での役割分担等をすすめたい。

７．最後に（研究担当者の所感）

今回の研究にあたって、全通研事務局の皆様、全通研放送教育研究委員会の先生方、NHK放送局の方々へ感謝を述べたい。特に１年目の東京視察や校内研修会は、こういった方々との繋がりなしでは得られなかった経験である。私自身、本校に赴任して手探りで模索していた「通信制高校での教育」に、大きな指針を示していただいたような気がする。また、全国のいろいろな場所で通信制高校に携わり、尽力している方々がいることを実感し、勝手ながら連帯感を抱き、活力をいただいた。

最後に、本校職員に感謝を伝えたい。２年間の放送教育研究に対して、先生方は常に広い心で受け止め、主体的に関わってくださった。大変ありがたく、心強かった。これからも本校で、細く長く、放送教育を活用していければと願う。